

2014年12月

2014年度全国公民科・社会科教育研究会「授業研究委員会」研究集会へのご案内

本年度の全公社研「授業研究委員会」研究集会を下記の要領で開催いたします。ご案内申し上げます。

生徒の主体的な学びを促すために、高等学校公民科授業には生徒によるディベートやディスカッションが積極的に取り入れられるようになってきました。生徒に自らの問題として「幸福・正義・公正」とは何かを考えさせるために、授業研究委員会では「社会保障」はまさにうってつけのテーマと考えます。

社会保障については、はじめに、生徒たちは自らの身を守るため、その考え方や仕組みについて理解し、保険料や税を払う意味について理解する必要があります。その上で、生徒たちは、将来の当事者として、また主権者として、日本の社会保障制度が抱える諸問題（例えば、負担と受益の世代間格差問題や財政問題など）を探り、その解決法について考え議論することになります。

しかしながら、私たち教員自身、情報の洪水のなかで、生徒に社会保障をめぐる課題をどう考えさせ、どう議論させていったらよいか、生徒を前に迷うことも少なくありません。そこで、授業研究委員会では、社会保障の基本的考え方や仕組みを再確認したあと、社会保障に詳しい識者の方々をパネリストとしてお招きし、公的年金制度に焦点を絞って、課題はどこにあり、どのように解決すべきか、争点を明らかにしながら論じていただき、フロアも交えた議論を行いたいと思います。日本で持続可能な社会保障制度をどう作り上げたらよいか、私たちも生徒と同じように、皆で自分たちの問題として考えてみることにいたしましょう。

多くの教育関係者の皆様にご参加いただけますことを期待しております。なお、ご出席のお申し込みはとくに必要ありません。

★日時：2015年2月11日（水・祝日）午後2時～5時（1時30分受付開始）

★会場：東京都立蒲田高等学校 大田区蒲田本町1-1-30
JR蒲田駅東口から右手川崎方面に向かい徒歩7分。京急蒲田駅から徒歩15分。
<http://www.kamata-h.metro.tokyo.jp/cms/html/entry/3/3.html>

★テーマ：「理解から議論へ ～日本の社会保障を考えてみよう～」

★内容：①講演：厚生労働省 政策統括官付社会保障担当参事官室 松江 憲 氏
「日本の社会保障の考え方と仕組み ～社会保障教育のすすめ～」

②パネルディスカッション：

「持続可能な社会保障に向けて ～公的年金制度を例に～」

パネリストとして

太田 啓之 氏：朝日新聞記者。社会保障制度改革について多くの論説を書かれています。著書として、文春新書『今、知らないと絶対損する年金50問50答』。

前川 瑞穂 氏：日銀金融広報中央委員会事務局次長。日銀で財政収支予測や景気分析をされてきました。社会保障関係費が圧迫する財政の持続可能性について論じていただきます。

小黒 一正 氏：法政大学経済学部准教授。専門は公共経済学。世代間公平問題に取り組まれています。近著にNHK出版新書『財政危機の深層～増税・年金・赤字国債を問う～』。

★問合せ先：授業研究委員会事務局 神奈川県立川和高等学校 落合 隆
〒224-0057 横浜市都筑区川和町 2226-1 TEL045-941-2436 Fax 045-942-0826